

むつごろう通信

3号

2003年

2月28日発行

退官の御挨拶



生物資源循環系
解析学分野
教授
山口隆男

私は天草五橋開通の前年に着任し、以来37年余になります。合津マリンステーションの設備、建物は驚くほどに立派になっています。その使命を理解した熊大の方々の熱意、地元の松島町の方々の協力のお陰です。そして、研究、教育、社会への貢献に関して着実に成果を挙げています。

私にとって、ハクセンシオマネキは、ありがたい存在でありました。甲の幅が2 cm 足らずの可愛らしいカニで、天草松島は日本有数の生息地です。雌はハサミが両方共に小さいのに、雄では片一方が巨大化しています。夏には雄は活発な求愛ダンスをします。社会性が発達しており、動物行動学



ハクセンシオマネキ。雄は巨大ハサミを振って雌を誘っている。

的に実に興味深い。ハクセンシオマネキを活用して、いろいろな研究を展開できたのは幸いでした。

美しい天草松島で研究・教育生活を送り、建物、設備の整備を進めてきたが、臨海実習に関したものを特に充実でき、私は満足しています。また、誇りに思っています。有明海、八代海の環境悪化に伴って、合津マリンステーションの役割は一層大きなものになりました。今後の活動に期待しています。



略歴：1965年9月に熊本大学理学部附属臨海実験所（当時）助手として着任，専任講師，助教授，教授を経て，沿岸域環境科学教育研究センター教授。着任以来一貫して天草で研究と教育を担当。
2003年3月定年退官

室内での実習風景。実習関連の設備は充実している。